

知的財産活動

知的財産活動

グローバルな組織体制とガバナンスの強化

当社の知的財産部門は、グローバル法務部門の一組織であり、世界各地の知財活動を統括する組織として位置づけられています。知財担当責任者の指揮のもと、各地域の知財活動を統括する機能が配置され、担当地域の知財活動を遂行しています。各地域の知財活動を横断的に管理する機能を備えており、グローバルに最適化された管理方法を各地域に展開しています。これにより、地域ごとに異なる知財活動を標準化された考え方で統括し、各地域が連携しながら知財活動を推進することで、当社の知財活動は常に高い品質と効率を維持しています。

当社の知財活動は、経営陣が継続的にモニタリングする体制を整備しています。知財担当責任者は年1回、グループ経営執行会議に、知財活動の重要業績評価指標 (KPI) に基づいた活動報告を行っています。これにより、知財活動の進捗状況や成果を客観的かつ定量的に評価しながら、知財活動を推進しています。また、最高法務責任者は年1回、取締役会に活動報告を行い、必要に応じて適切な対応を講じています。このような体制のもとで、知財活動のガバナンスの強化を図っています。

2023年に策定した知的財産部門の中期計画に基づき、当社は知的財産管理の国際規格 (ISO56005) を遵守する仕組みを構築しています。具体的には、従来地域ごとに異なっていた業務

プロセスや知財管理システムを調和・統合することで、グローバル全体での体系的な知財マネジメントの確立、知的財産の品質向上、ポートフォリオ管理の効率化を目指しています。今後も、グローバルな視点での知的財産活動を推進し、当社の持続的な成長を支えるガバナンス体制の強化に取り組んでいきます。



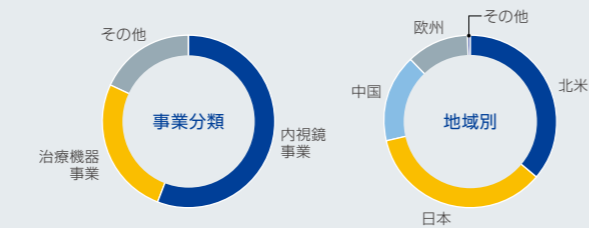
知的財産管理のグローバル標準化

当社では、各地域に設置された知財チームが担当地域のプロジェクトから創出される知的財産を管理しています。各地域の知財チームは、これまで担当地域の特性に合わせて最適化された、意思決定プロセスに基づき知的財産の管理を実施してきました。一方、現在、当社では異なる地域の関係者が一つの製品開発に関わるグローバルな製品開発体制が拡大しております。そのため、地域ごとに最適化されてきた知的財産に関する意思決定プロセスを、グローバルに標準化する必要性が高まっています。この環境変化へ対応するために、当社は知財部門内に専任担当リーダーを配置し、各地域のベストプラクティスを収集し、知的財産管理に関する標準化をグローバルに進めています。2023年は、日本、米国、欧州の3極間で整合された特許の維持管理に関する意思決定プロセスを策定し、その運用を開始しました。

この意思決定プロセスを導入することにより、開発フェーズや特許審査の進展に伴い変化する各特許の位置づけをタイム

リーに見直し、ビジネス保護へ効果的に貢献できる特許を選別し、維持管理できるようにしました。また、この意思決定プロセスの運用をサポートする特許管理システムの構築も併せて進めており、将来的には特許管理データと他部門の保有データを合わせて、データ重視の知的財産投資の実現を目指して取り組んでいます。引き続き、当社の持続的な成長に資する特許ポートフォリオの構築を目指して取り組んでまいります。

登録特許の保有件数(約15,000件*)



*1 2024年3月時点

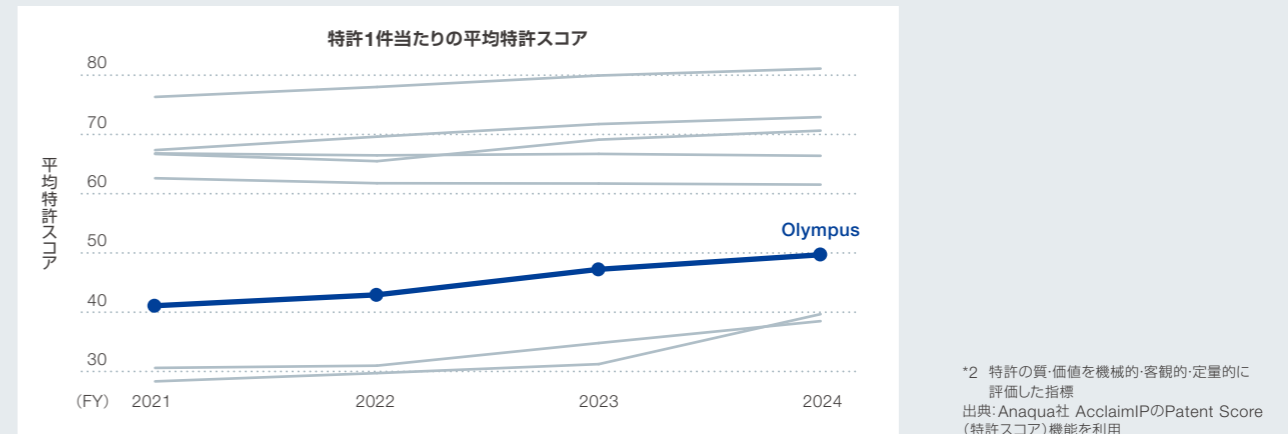
機能・地域を横断したコラボレーションを育む組織文化の醸成

グローバルな製品開発体制においては、機能・地域を横断して効果的に情報を共有・交換することが不可欠です。そのため知財部門では、四半期ごとに各地域の知財担当者、ビジネス・研究開発の関係者を集め、知的財産活動の進捗、社内および社外の動向に関する情報を互いに共有し、知的財産に関わる課題について議論しています。

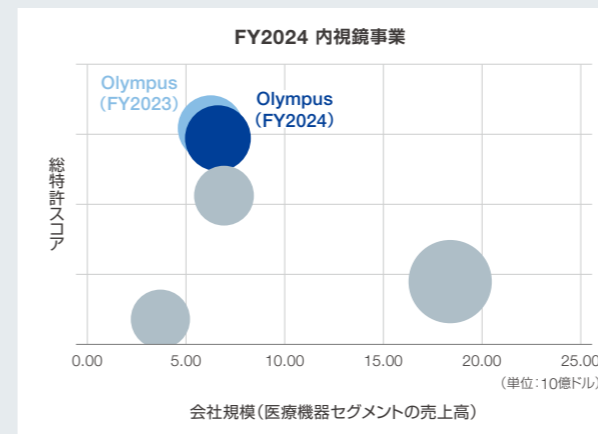
この取り組みを通じて、機能・地域を横断したコラボレーションが生まれ、各地域のベストプラクティスが他の地域へ伝搬し、組織やチームの視野が広がってきています。引き続き、高いパフォーマンスを発揮することができる組織文化の醸成に取り組んでまいります。

同業他社と比較した特許スコア*2の分析

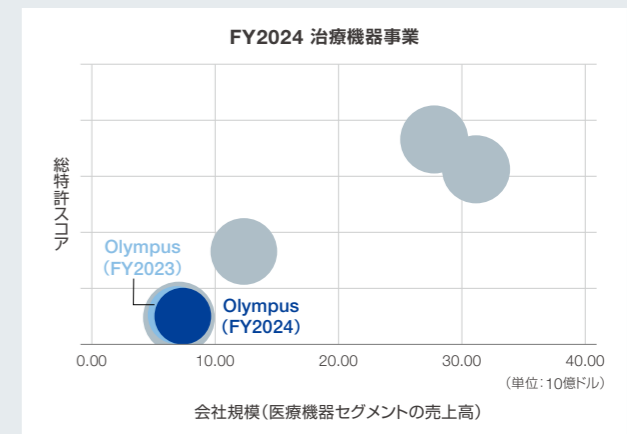
▶ 当社は、特許1件当たりの平均特許スコア(強さ)を継続的に向上させている。



▶ 内視鏡事業では、特許ポートフォリオの最適化により、総特許スコアが減少し、平均特許スコアは増加した。



▶ 治療機器事業では、特許ポートフォリオの最適化および成長ドライバーへの外国出願投資により、総特許スコアを維持しつつ、平均特許スコアを増加させた。



バブルのサイズ: 平均特許スコア